

「こうべ森の文化祭 2022」の開催について

神戸農林振興事務所 森林課 上川総司

推進方策：県民総参加による森づくりの推進
(社会全体で支える森づくりの推進)

1 はじめに

六甲山の森林や自然と触れあいながら、植樹体験、丸太切り体験、森の材料を使ったりースや打楽器創り、キノコ観察会、木製玩具等を楽しむ「こうべ森の文化祭 2022」が、神戸市の再度公園（ふたたびこうえん）で開催されました。

当該イベントは、神戸市と「六甲山の仲間たち」が主催し 2002 年から毎年開催されているもので、コロナ禍の影響で 2020 年は中止となりましたが、昨年に続き開催となりました。

「六甲山の仲間たち」は、六甲山をフィールドに森を守る活動や六甲山の魅力を伝える活動を行っている「こうべ森の学校」や「ドングリネット神戸」、「ブナを植える会」、「六甲山専門学校」など様々な団体等で構成されています。

神戸農林振興事務所では神戸市の要請を受け、この「六甲山の仲間たち」の一員として当該イベントに検討会から参加し、来場者を対象とした林業普及活動を行っており、子供を持つ都市部県民に木製玩具で遊んでもらい木の良さに触れる機会を提供したり、身近にいる六甲山周辺の野生動物を知ってもらう剥製・パネル展示等を実施しました。

また、スタンプラリーとして六甲山イノシシをテーマとした出題を行い、来場した県民に野生動物にはエサを与えないことを知ってもらう機会を設けました。

2 内 容

(1) 日 時 令和4年10月30日(日) 10:00～15:00

(2) 場 所 神戸市北区山田町下谷上 ^{ふたたび}再度公園「森の遊び場」周辺

(3) 主 催 神戸市、六甲山の仲間たち(※)

※こうべ森の学校/こうべ森の小学校&ようちえん/摩耶の森クラブ/ドングリネット神戸 神戸キノコ観察会/ (一社)ブナを植える会/東お多福山草原保全・再生研究会/COLORFUL PROJECT/兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会/六甲山専門学校/伊藤ハム(株)/ (株) レッシングデザインビュロ/国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園/環境省神戸自然保護官事務所/兵庫県神戸農林振興事務所/兵庫県六甲治山事務所/キーナの森/神戸市立森林植物園/(公財)神戸市公園緑化協会/神戸市防災課/神戸市森林整備事務所

以上が R4 年度参加の団体・法人等

(4) 来場者 イベント全体：約 1,000 人(公表数：受付の検温シール貼付者数でカウント)

※神戸農林振興事務所出展：親子約 100 組(延べ約 420 人)が来場

(5) プログラム

<時間制・定員制プログラム>

- ・アジサイ・ツツジの植樹体験（こうべ森の学校）
- ・自然観察（こうべ森の学校）
- ・子供丸太切り体験（こうべ森の学校/神戸市森林整備事務所）
- ・森でおまつり（こうべ森の小学校&森のようちえん）
※森の材料でハロウィン用お面作成
- ・粘菌観察（摩耶の森クラブ）
- ・キノコ観察ツアー（神戸キノコ観察会）
- ・森のコンサート（COLORFUL PROJECT）
- ・BE ROKKO づくり（六甲山専門学校・白馬堂）

<随時開催プログラム>

- ・こうべ森の学校・・・・・・・・・・木作品展示・販売
- ・摩耶の森クラブ・・・・・・・・・・粘菌の標本展示
- ・ドングリネット神戸・・・・・・・・木の枝と木の実の工作
- ・神戸キノコ観察会・・・・・・・・生キノコの展示、写真パネル展示
- ・兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会
・・・・・・・・紙芝居上演、間伐材で小物づくり体験、活動紹介、緑の募金
- ・東お多福山草原保全・再生研究会・・・・東お多福山の草花写真、活動写真パネル展示
- ・COLORFUL PROJECT・・・・自然素材で打楽器創り、ナチュラルカーラーで絵を描く
- ・六甲山専門学校・・・・・・・・六甲山グッズの展示・販売
- ・国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園
・・・・・・・・葉っぱのおはがき、すすきのフクロウ作り
- ・環境省神戸自然保護官事務所・・・外来生物の標本・パネル展示
- ・兵庫県神戸農林振興事務所・・・木製玩具で遊ぼう！（つみき・魚つり）
六甲山周辺の身近な野生動物（剥製・パネル展示）
- ・兵庫県六甲治山事務所・・・六甲山の治山の歴史紹介（パネル、立体模型展示）
- ・キーナの森・・・・・・・・・・葉っぱフロッタージュ しおり作り
- ・神戸市立森林植物園・・・・・・・・パネル展示、森の遊具、丸太重さ計りゲーム
- ・神戸市防災課/（公財）神戸市公園緑化協会
・・・・・・・・秋の自然でリース編み、六甲山もりづくり基金パネル展示
- ・伊藤ハム（株）・・・・・・・・・・CSR 活動のパネル展示
- ・（株）レッシングデザインビュロ・・・ドライフラワー&フラワーアレンジメントの展示・販売

3 結果・考察

再度公園は神戸市街中心部（中央区、灘区、東灘区、兵庫区、長田区等）からも近く、アクセスも良いため日頃から神戸市民の憩いの場となっているほか、無料の駐車場なども完備されているため六甲山登山やハイキングの拠点としても利用されている。

また、周辺は明治期から治山事業等による植栽で自然林に近い二次林として保全されており、多種多様な樹木があることから森林浴など手軽に森林を楽しめるスポットとして都市住民を対象とした林業普及活動をするのに最適な立地条件を備えている。

このような立地条件に加え、当該イベント開催当日は風もほとんど無い穏やかな秋晴れに恵まれ、例年にも増して来場者が多かった。

特に地元小学校（こうべ小学校ほか）からの親子での来場者も多く、木製玩具に触れ身近に木に親しむ機会を提供することができ、盛況のうちに普及活動を実施出来た。



出展全景（テント2張）



木製玩具（積みひのき・魚釣り）

（丹波年輪の里から借用）



六甲山周辺の野生動物

（森林動物研究センターから借用）



ウリボウに興味を抱く来場者



剥製を熱心に見る来場者



木製玩具を楽しむ家族



木製玩具で遊ぶ親子



木製玩具を楽しむ親子



木製玩具を楽しむ子供達

4 今後の取組・課題

都市部の県民等に森林で遊ぶ楽しさや大切さ、木の良さ、身近に生息する野生動物などを知ってもらい再認識する機会として重要なイベントであり、林業普及活動の場としても貴重なものであることから、神戸市と連携して可能な限り今後も継続して対応していきたい。

また今後は、楽しく遊んだ体験が暮らしの中での木材製品の積極的な利用や将来の木造住宅等の木材利用に繋がるような体験型の林業普及活動を考えていきたい。

5 課題に関わった林業普及指導員

神戸農林振興事務所 森林課長 上川総司、農政専門員 土井幸亮

ひょうご元気松生育状況調査について ～森林ボランティア団体への育成指導～

神戸農林振興事務所 森林課 下田惣一

推進方策：県民総参加による森づくりの推進
(多様な主体による活動の推進)

1 はじめに

兵庫県では、平成 14 年度から松くい虫被害に強い抵抗性松「ひょうご元気松」を防除区域等に積極的に植栽し、松くい虫被害が発生しにくい条件整備を図るとともに、植栽活動による松林保全の普及・PR を目的として森林ボランティア団体等にマツ苗木の配布を行なっています。

神戸農林事務所管内でも、平成 22 年～平成 26 年にかけて、のべ 8 団体に対して苗木の配布を行なっています。

この度、県庁治山課より、ひょうご元気松生育状況調査について依頼があったため、調査を行ないました。

その際に感じた問題点や改善点等について、他の農林事務所の植栽地でも同様の課題があるのではないか？と思いますので情報共有のため報告します。

2 内 容

- (1) 日 時 令和 4 年 10 月 31 日、令和 4 年 11 月 9 日
- (2) 場 所 神戸市内一円
- (3) 参 加 者 神付・産土の森の会、神戸市舞子墓園管理事務所、山田の里グリーンクラブ、光山寺管理委員会、神戸市森林植物園
- (4) 指導内容 植栽後の保育管理について（下刈り、除伐）
活動地におけるナラ被害対策
生育不良箇所におけるその原因

3 結果・考察

当該調査は毎年調査依頼がなされているが、特定の箇所偏って例年報告されていることが多く、また、当事務所では、平成 26 年度以降配布の実績もないため、植栽箇所の引継も途絶えて久しく植栽箇所を特定するのに多大な労力を要しました。

そのため、今回調査を実施するにあたって、GPS 機能の付いたカメラで撮影し、Formap (H3 に治山課が各農林に配布したソフト) で地図情報として管理しました。【別図参照】

また、現地調査に当たって、その承諾作業についても、ひょうご元気松植栽希望調書の様式に連絡先の記載が無いため、配布した兵庫県森林組合連合会の担当者やボランティア団体の HP・ブログ等を頼りに特定する必要がありました。

【別図】



位置とカメラの向きを表示↑

4 今後の取組・課題

それぞれの活動地で、調査を通じてひょうご元気松が元気ですくすくと育っていることを確認できました。下刈り等の撫育作業大変だったと思います。

植栽箇所については、位置情報で管理することができたので支障をきたすことはないと考えますが、連絡先については、団体の会長や世話人が変わることも多く、そのためにも、3～5年周期で調査地をローテーションして連絡先の情報を更新していく必要があると実感しました。

今回はひょうご元気松の生育状況調査という名目で接触しましたが、ナラ枯れ等の対策方法についての質問や課題を抱えていることを実感しました。

今後も適正な管理を行ってもらい観点からタイムリーなニーズに応じた内容で継続的な指導を行っていきたい。

5 課題に関わった林業普及指導員

神戸農林振興事務所 課長補佐 下田惣一

サントリー天然水の森における同社新人研修の再開について

加東農林振興事務所 森林課 大津賀秀樹

推進方策：県民総参加による森づくりの推進
(多様な主体による森づくり活動の推進)

1 はじめに

サントリーグループ(サントリーホールディングス株式会社など)は5月9日(月)、西脇市門柳の「サントリー天然水の森」において、若手職員を対象とした森林整備体験を実施し、全国各地から集まった約80名が除伐などの里山整備を体験しました。

「水と生きる」をコーポレート・メッセージとする同社では、工場でくみ上げる地下水の水源林整備として、毎年新入社員を対象に天然水の森で森林整備体験を実施していましたが、コロナ感染対策のため令和2年度以降は研修を中止しており、今回は3年ぶりの研修開催となります。

2 内容

サントリーグループは国内21箇所に「サントリー天然水の森」を設定し、企業の森づくり活動を実施しています。西脇市門柳では、地元生産森林組合等との間で2010年(平成22年)に協定を締結し、面積は1,065haあります。西脇市立日時計の丘公園のキャンプ場に隣接しており、研修時の駐車場やトイレなどは、同公園の施設を利用することができること、大阪府箕面市にある同社研修施設から近いことなどから、以前から同社の職員研修の場として利用されており、また、区域の大部分を占めるヒノキ人工林では、職員研修とは別に間伐などの森林整備が進められています。

今年度の研修は5月と11月の2期に分け、5月は2020年度入社組、11月は2021年度入社組を対象に開催される予定で、5月9日(月)の第1回研修では全国各地から集まった若手社員約80名が参加しました。

地元門柳山生産森林組合や西脇市長などからの歓迎のあいさつの後、研修生は10班に分かれ、北はりま森林組合の職員の指導のもと、手鋸と剪定鋏を使い、ヒサカキやソヨゴの除伐などの作業を1時間ほど行いました。最初は遠慮がちに作業を進めていましたが、除伐によりうっそうとしていた森林がだんだん明るくなる様子を見るにつれ、手鋸や選定鋏を握る手の動きが徐々にペースアップしていき、最後は直径10cmほどの少し太い木の伐採に挑戦するなど、森林整備の効果を体感していました。

作業終了後は昼食として西脇市で捕獲されたイノシシを使った猪汁が振る舞われ、ジビエ料理でお腹を満たした参加者は満足した様子でした。



歓迎のあいさつ

(左か片山市長、小坂所長)



作業風景

(二次林での里山整備体験)



ジビエ料理の昼食(猪汁)

3 結果・考察

サントリー社の研修担当者に聞くと、コロナ禍でオンライン研修が中心となる中、何とか森づくり体験だけは対面で実施したいと工面した結果、ようやく研修再開に至ったとのことでした。研修のために確保できたのは移動を含めた当日1日だけで、現地での研修は昼食を含めて約3時間しか確保できないことから、研修内容が手鋸と剪定鋏による里山整備体験に限られたことはやや残念に感じます。

あと1～2時間研修時間を確保できれば、簡易な植生調査や土壌調査など、森林の水源かん養機能をより詳しく知るための体験メニューを追加できたり、伐採した樹木を使ってクラフトをしたり、隣接するキャンプ場で使うための薪づくりに取り組んだりなど、資源の循環利用（サントリーと西脇市はペットボトルの再利用に向けた協定を締結するなど、資源の循環利用に取り組んでいる）にも体験してもらえるので、今後、研修プログラムを見直す機会があれば、助言したいと思います。

4 今後の取組・課題

西脇市では森林環境譲与税を活用した木材利用推進策として、天然水の森で伐採、搬出された間伐材を本棚などに加工し、市内小学校などへ配布できないか検討をはじめています。その際、全国的な知名度がある「サントリーグループ天然水の森」をブランドとして活用（天然水の森の焼印を押すなど）し、木材利用推進をより広くPRしたいと考えているようです。

西脇市門柳の天然水の森では、ヒノキ人工林で毎年数ヘクタールの搬出間伐が行われており、数百㎡の材が搬出されているので、事業主のサントリーから協力が得られれば、材の調達に支障はありません。しかし、西脇市内には製材や加工ができる工場がないため、材を市外に持ち出して加工する必要があります。「天然水の森」というワードを活かして普及を図るには、水の流れと同様、流域内で材を加工することが望ましいと思いますが、予算や加工技術の有無などから流域外で加工せざるを得なくなる場合は、ブランドイメージを保つことができるよう、サントリーや地権者の生産森林組合の理解を得たうえ、ストーリー性のある取組とする努力が求められると思われます。

加東農林振興事務所では、昨年度までに取り組んできた北播磨木材製品開発支援事業や、北はりま木材倉庫検討会の成果を活用し、西脇市に加工業者を紹介したり、西脇市とサントリー等との協議に参画して適宜助言したりなどの支援を行うとともに、この取組が実現に至った場合はその成果を広くPRするなど、更なる普及活動につなげたいと思います。

5 課題に関わった林業普及指導員

加東農林振興事務所 所長補佐兼森林課長 大津賀秀樹

【参考：研修行程表】

22年VALUE研修スケジュール

プログラム	
9:00 - 11:00	2:00 新大阪集合・バス乗車→西脇市日本のへそ日時計の丘公園到着
11:00 - 11:45	0:45 開会式
11:45 - 11:55	0:10 作業現場へ移動
11:55 - 12:55	1:00 林業体験
12:55 - 13:55	1:00 移動・昼食（猪鍋）
13:55 - 14:10	0:15 閉会式
14:10 - 14:20	0:10 移動・新大阪行き ※要検討
14:20 - 16:20	2:00 JR新大阪駅到着・解散

西脇門柳山での滞在は、開会式（11:00～）から閉会式（～14:10）までの約3時間

川崎重工業（株） 秋の森づくり活動について

加東農林振興事務所 森林課 大津賀秀樹

推進方策：県民総参加による森づくりの推進
(多様な主体による森づくり活動の推進)

1 はじめに

川崎重工業（株）11月12日(土)、小野市黍田町の「小野アルプス 川崎重工なごみの森」において、従業員と家族を対象とした森づくり活動を実施し、43名が植栽や登山道整備などを体験しました。

同社は、地域社会との共生を目指した取組として、平成20年12月から多可町で、令和2年度からは多可町に加えて小野市でも企業の森づくり活動を実施しています。

2 内容

川崎重工業（株）は国内4箇所（兵庫県内2カ所、東京都町田市、高知県仁淀川町）で、企業の森づくり活動を実施しています。小野市黍田町では、小野市との間で平成30年に協定を締結し、面積は10haあります。「小野アルプス 川崎重工なごみの森」は、広葉樹が広がるいわゆる里山で、登山道は一般市民によるハイキング利用も盛んに行われている場所です。「白雲谷温泉ゆぴか」に隣接しており、研修時の駐車場やトイレなどは同施設を利用することができること、山陽自動車道三木・小野インターチェンジに近いことなどから、従業員だけではなくその家族による除伐やカシノナガキクイムシ防除のための粘着シート設置などの森林整備が進められています。

今年度の研修は4月と11月の2期に分け、4月は大人32名、子供10名が参加、11月は大人31名、子供12名が参加しました。

11月12日は主催者あいさつの後、3班に分かれ、第1班は県森連や木原木材店の指導のもと、登山道に木製階段や水切りを設置しました。現場で除伐した木材の皮剥ぎや、木材運搬など社員が行いましたが、社員同士協力しながら整備を進めていました。

残りの2班は午前と午後で交代し、北はりま森林組合の職員の指導を受けた植栽活動や、ひょうご森の倶楽部メンバーの解説により自然観察や樹木札の取り付け、ドングリ拾いを行いました。現場で植栽した樹種は、クヌギ、コナラ、アラカシですが、可能な限り自生しているものを植えるという考えで、コナラとアラカシは「なごみの森」で拾ったドングリから育てた苗だそうです。クヌギは自生していないので購入苗だそうです。将来カブトムシなどの昆虫が集まることを期待して、あえてクヌギを植栽しているということでした。活動で拾ったドングリは、社員が育てて来年度以降また植栽する計画です。



植栽した苗木



参加者の記念写真



作業状況
(植栽、階段)

3 結果・考察

大人だけのグループや家族連れなど、様々な方の参加がありましたが、いろいろな活動メニューが用意されており、参加者に応じた活動ができているように思いました。

ひょうご森の倶楽部メンバーによる解説もよく準備されており、参加者も満足していた様子でした。

春と秋で一部のメニューが重なっているため、簡易な植生調査や土壌調査など、森林の水源かん養機能をより詳しく知るための体験メニューを追加したり、伐採した樹木を使ってクラフトも体験してもらえるので、今後、研修プログラムを見直す機会があれば、助言したいと思います。

4 今後の取組・課題

川崎重工業（株）は、小野市で広葉樹林を対象として春と秋に里山整備を、多可町で人工林を対象に下刈りや除伐を実施しており、熱心に活動しています。

加東農林振興事務所では、今後も同社の活動に参加して更なる普及活動につなげたいと思います。

5 課題に関わった林業普及指導員

加東農林振興事務所 所長補佐兼森林課長 大津賀秀樹

【参考：研修行程表】

スケジュール

10：00 開会式【屋外】

10：15 集合写真撮影（班ごとに分かれて撮影）

10：15 登山道整備・森づくり活動（植樹） / 樹木札の取付け・種子拾い

12：00 昼食

13：15 登山道整備・森づくり活動（植樹） / 樹木札の取付け・種子拾い

15：00 閉会式【屋外】

加美林研グループ 木の枝鉛筆製作活動支援について

加東農林振興事務所 森林課 森本麻友美

推進方策：県民総参加による森づくりの推進
(多様な主体による活動の推進)

1 はじめに

加美林研グループでは、木の枝を使用した鉛筆の製作に取り組んでいます。令和5年1月30日(月)、加美林研グループの活動支援を行いましたので報告します。

2 内容

林研グループはメンバーの高齢化や減少により活動が低迷しがちとなっています。そこで、木工クラフトをモデルとして身近な材料を用いた手軽な活動から取り組み、グループ活動の活性化をめざすことを目的として、木の枝を使用した鉛筆の製作を実施しています。

ゆくゆくは、企業によるSDGsの取り組みに寄与することにより、活動のモチベーションをあげることを見据えています。林研グループは材料の採取およびノベルティへの加工段階において可能な範囲で参画し、企業がノベルティを活用してPRを行う傍らSDGsに貢献していくというのが将来的にめざす姿です。

今回の活動に先立ち、10月に多可町八千代区大屋にて材料となる枝の採集を実施し、22樹種の枝を採集することができました。

1月30日は事前に打ち合わせを行い、作業の方法や手順、今後の活動計画等についての情報を関係者で共有しました。製品のタグに木の名前とQRコードを記載し、それを読みとることで樹種等の情報がわかるホームページにアクセスできるようにすればいいのではないかという提案が出ました。

その後、屋外にて枝の先にドリルで穴を空け、鉛筆芯を差し込んで鉛筆に加工していく作業を行いました。

今後は、随時メンバーが集まって活動を進めていく予定です。



打合せ風景



材料



作業状況

3 結果・考察

収集できた樹種が22種と多く、鉛筆の仕上がりが多様性に富んでいるのが非常に興味深いと感じました。

コウゾの枝を加工した鉛筆を多可町の特産物である杉原紙とコラボで売っていくことや、径の太い枝を活用してグッズを作成すること等助言したいと思います。

4 今後の取組・課題

加美林研グループは、来年度の林業グループコンクールにおいて兵庫県代表として参加する予定になっており、発表に向けて熱心に活動しています。

加東農林振興事務所では、今後も同グループの活動支援を継続し更なる普及活動につなげたいと考えます。

5 課題に関わった林業普及指導員

加東農林振興事務所 所長補佐兼森林課長 大津賀英樹、主査 畝井良幸、職員 森本麻友美

【参考：行程表】

スケジュール

9:30 会員集合

10:00 農林職員・森林林業技術センター職員 合流、打合せ開始

11:00 屋外作業

“かみかわ木造インターンシップ”での林業体験開催

姫路農林水産振興事務所 森林課 新見 満

推進方策：県民総参加による森づくりの推進
(社会全体で支える森づくりの推進)

1 はじめに

“かみかわ木造インターンシップ”は、木造建築の大工を目指す、専門学校生や工業高校の生徒らが、現役大工の指導を受けながら木堀等の制作体験を行い、同時に“銀の馬車道”にふさわしい街並み再生を行うものです。

このインターンシップの中で木造建築に使われる木材の生産過程である「林業」について知る機会として林業体験を実施しました。

2 内容

大工養成の専門学校「日本工科大学校」(姫路市兼田)とかみかわ銀の馬車道まちづくり協議会等で構成する実行委員会主催のインターンシップは、令和4年9月16日(金)～19日(月)の4日に渡り、県内外の学生21名が参加して行われました。



【インターンシップ開講式】

初日(16日)の開講式後に森林の働きや林業の営み、間伐作業の安全について講義を行い、続いて近隣森林へ移動し、間伐作業の体験を行いました。

日時：令和4年9月16日(金)～9月19日(月)

うち林業体験 9月16日(金)10:30～13:00

場所：神崎郡神河町栗賀地区 講義：栗賀公民館、体験：栗賀地内人工林

3 結果・考察

公民館内で30分程度の講義ののち森林での間伐作業体験とし、学生たちは4班に分かれ、地元の森林を管理する栗賀財産区役員4人が指導者となり、チェーンソーによる伐木実演と班ごとに手ノコを使った間伐体験を行いました。



【間伐体験の様子】

体験では、ヒノキ人工林での実施であったため、掛かり木が発生しやすく伐倒には各班とも苦勞していましたが、伐倒後 2m 程度に切り分けさせ、林外まで人肩運搬を行いました。

日頃、乾燥し製材された木材を扱う学生たちも生木の重さを実感していました。



【粟賀財産区の指導者と学生たち】

4 今後の取組・課題

林業体験実施の人工林が高齢・大径化しており、間伐体験には向かなくなっており、体験内容と実施箇所の見直しが必要であることから、次回以降については若齢林で間伐作業に加えて枝打ち作業も行える適地を新たに確保し、体験メニューの充実を図って、将来の大工に県産木材利用の意義を伝えていくこととします。

5 課題に関わった林業普及指導員

姫路農林水産振興事務所 森林専門員 新見 満

“森林環境学習会”市川町立瀬加小学校3年生と森を探検

姫路農林水産振興事務所 森林課 石坂知行

推進方策：県民総参加による森づくりの推進
(社会全体で支える森づくりの推進)

1 はじめに

「地元の子供たちに地元の山を知ってもらいたい」、市川町外三ヶ市町共有財産事務組合の熱い思いを受けて姫路農林では令和2年度より市川町立瀬加小学校3年生を対象に森林環境学習会を実施しています。昨年度は同事務組合が管理する山を歩きながら、11人の子供たちにいろいろな体験をしてもらいました。

2 内容

【開催日】令和4年10月25日(火)

【場 所】市川町下牛尾字忍辱奥山

(1) 里山探検

緩やかな谷筋を歩きながら林業普及指導員が草木や昆虫、森のことについて解説しました。道中、虫こぶが付いたヌルデや、色とりどりの実や虫こぶをつけたノブドウなど、興味深いものがたくさん見られ、子供たちは大喜びでした。また、同地区は今年度、緊急防災林整備事業(溪流対策)を実施しており森林整備や森林の防災機能などについても説明しました。



新見林業普及指導員による解説(ヌルデの虫こぶとお歯黒について)



ノブドウがお気に入り



森林整備についても解説

(2) ドローン体験

1km あまりの谷筋を登り、谷の奥の広場に到着しました。林業普及指導員が森林調査用のドローンを実際に飛ばして見せると子供たちは「わーっ！」と大歓声。モニターの画面で人工林と天然林を判別できることなどを説明しました。何よりもドローンが飛んでいる姿そのものに興奮している様子でした。



ドローンを操縦する浅田林業普及指導員。空から記念撮影

(3) 森についての紙芝居

石坂が「森のはたらき」と「森のしごと」について紙芝居で説明しました。市川町の面積の75%が森林で、そのうちスギ、ヒノキの人工林は56%。林業は山を守る仕事。学校で教わってみんな知っているようでした・・・。



(4) スギ伐倒体験

「森のしごと」の大切さがわかったところで早速伐倒の実演。「この木の高さは何メートルかな？」の質問に「1000m！」と元気に答えてくれました。ボランティアで駆けつけてくれた中はりま森林組合さんが実際に伐り倒すと迫力満点！音と地響きにびっくりして一瞬沈黙の後、また「わーっ！」と大歓声。実際に巻き尺で長さを測って見たら25mでした。



カッコイイ！まるで戦隊モノ！



チェーンソー、「重い」

玉切りにするとおがくずがたくさん出ました。初めて触るおがくずを不思議そうに撫でて握って「かつおぶしー！」と言いながら、もらった円盤に乗せてお好み焼き屋さんごっこが始まりました。



木にも年齢があるよ。この木は何歳かな？

おみやげに円盤と全国林業改良普及協会発行の「森と人シリーズ」をもらって学習会終了。これからも森と親しんでね。

3 結果・考察・感想

子供たちの反応は良好でした。何を見ても大喜び、たいへん積極的で「チェーンソー持ってみるひとー！」と呼びかけると全員が「ハイッ！ハイッ！」と手を挙げ、誰に持たせてあげようか悩むほどでした。ほとんどの子供が分厚くて重い円盤を一生懸命持ち帰りました。持ち帰って何に使ったのか、どんな遊びをしたのかはもはや大人の考えが及ぶ世界ではありませんが、想像するだけで楽しいものです。

瀬加の子供たちであれば自然に囲まれて育ってきたかと思いましたが、普段、自然と親しむ機会はそれほど多くないのかもしれないかもしれません。周りにたくさん自然がある一方で、多様な屋内遊戯ツールや情報ツールに囲まれています。子供同士の外出も数十年前のように自由ではないでしょう。親御さんのマイカーで家から目的地までドアトゥドア、更にここ数年は厳しい感染症対策を強いられていた現状が、日常生活と自然との間に不連続な境

界をつくってしまっているのかもしれませんが。

養老孟司氏があるインタビューの中で、自然とは『「脳で考えたものを具体的に形にしたもの」以外のもの』といった主旨の発言をしていました。不連続な境界は「脳で考えたものを具体的に形にしたもの」ばかりの中に人間を押し込めてしまいます。その結果、感覚を通して世界を受け入れる機会が減り、意味を持った情報ばかりを通して世界を理解するようになります。ひいては意味のないもの、分からないものを排除するようになり、例えば喫煙という行為に過剰な排除圧を向けるなど、私たちは既に危険な状況にあるのかもしれませんが。

しかし人間自体は言うまでもなく自然＝『「脳で考えたものを具体的に形にしたもの」以外のもの』にほかなりません。同事務組合は、人間が人間を、自然が自然を排除しようとしている現在の風潮に対してある種の危機感を抱いたのだと思いました。

子供たちは感覚を通して世界を受け入れていました。林業普及指導員一同、子供たちが大人の何倍もの広い世界を持っていることを実感しました。また、瀬加小学校の子供たちにはいつまでもそういった感性を持ち続けてほしいと強く思いました。

4 今後の取組・課題

子供たちと一緒に「感覚を通して」世界を分かち合える学習会を今後も楽しく続けて行きたいと思います。子供たちから学ぶことで普及活動の原点の様なものが見えてきます。今後も楽しい学習会を続けることで、子供たちから学んだ経験を他の普及活動にも活かしていく所存です。

5 課題に関わった林業普及指導員

姫路農林水産振興事務所 森林専門員 新見 満、課長補佐 浅田知宏、
主査 石坂知行